

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 63 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日時 2015 年 6 月 2 日 (火) 16:00~17:20
2. 場所 5 東洋海事ビル A+B 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 有富部会長, 新堀副部会長, 加藤幹事, 上田, 内山, 大久保, 小畑, 金木, 川上, 木倉, 熊谷, 仙波, 高橋, 仲神, 中島, 平井, 深澤, 藤田, 柳原, 山本 (20 名)
(代理委員) 塩見隆行 (関西電力/藤井代理) (1 名)
(欠席委員) 坂下, 小山 (2 名)
(委員候補) 伊藤真澄(国土交通省 海事局) (1 名)
(欠席常時参加者) 丸岡 (1 名)
(説明者) [LLW 廃棄体等製作・管理分科会] 都筑康男 (委員/原子力安全推進協会) (1 名)
(オブザーバ) 都筑康男 (原子力安全推進協会), 麓弘道 (新金属協会), 大野敬介 (国土交通省 海事局), 吉原恒一 (原子力安全推進協会) (4 名)
(事務局) 中越, 谷井 (2 名)

4. 配付資料

- | | |
|-----------|--|
| FTC63-0 | 第 63 回 原子燃料サイクル専門部会 議事次第 |
| FTC63-1 | 第 62 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録 (案) |
| FTC63-2 | 人事について |
| FTC63-3 | 【報告: 公衆審査結果】【余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法: 20XX (案)】 |
| FTC63-4 | 原子燃料サイクル専門部会 標準策定スケジュール (案) |
| FTC63-5-1 | 標準委員会 運営内規 (平成 27 年 3 月 13 日改正) |
| FTC63-5-2 | 標準委員会の活動基本方針 (H27 年 3 月 13 日改定) |
| FTC63-5-3 | 標準活動基本戦略タスク 運営要領 (平成 26 年 3 月 13 日制定 ¹⁾) |
| FTC63-6 | 2015 年秋の大会 (9/9-11) 企画セッション提案書 |
| FTC63-7 | 分科会活動状況報告 |
| FTC63-8 | 『クリアランスの判断方法: 2005 (AESJ-SC-F005: 2005)』初版第 11 刷の正誤表 |

参考資料

- | | |
|------------|------------------|
| FTC63-参考 1 | 原子燃料サイクル専門部会委員名簿 |
| FTC63-参考 2 | 標準委員会の活動状況 |

5. 議事内容

事務局から開始の時点で委員 23 名中、代理委員を含む 21 名の出席があり、成立に必要な委員数（16 名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC63-1)

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC63-2)

配付資料 FTC63-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について下記のとおり審議を行った。

【原子燃料サイクル専門部会】

専門部会での人事について以下の提案があった。

1) 委員退任の確認

大島 寛(国土交通省 海事局)

2) 委員選任の決議

伊藤 真澄(国土交通省 海事局)

審議の結果、提案は確認又は決議された。

【分科会】

分科会での人事について以下の提案があった。

1) 委員退任の確認

LLW 処分安全評価分科会

船橋 英之（日本原子力研究開発機構）

2) 委員選任の承認

LLW 処分安全評価分科会

坂本 義昭（日本原子力研究開発機構）

3) 常時参加者登録の確認

LLW 埋設後管理分科会

東原 知広

4) 常時参加者登録解除の報告

LLW 埋設後管理分科会

河原木 千恵

審議の結果、提案は確認又は承認された。

(3) 【報告・審議】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX (案)」の公衆審査結果 (FTC63-3)

¹ 平成 27 年 3 月 13 日を誤記。議事内容（6）参照。

事務局から配付資料 FTC63-3 に基づいて，“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX（案）”の公衆審査の結果，意見がなかったことが報告された。

(4) 【報告・審議】『クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)』初版第 11 刷の正誤表について (FTC63-8)

事務局から FTC63-8 に基づいて，“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”初版第 11 刷の正誤表案について報告があった。主な質疑等は以下のとおり。

Q：p.8 の対象欄“小口径配管”に対応する“測定内容“である”外面を γ 線測定)“は”(外面を γ 線測定)“か”外面を γ 線測定“のいずれかであり，この内容も正誤表の対象となるのではないか？

A：この内容も正誤表の対象となる(“外面を γ 線測定“であることが会議後，分科会関係者からの聴取で判明した)。

Q：p.9 の“4.1 “が正しいとすると，”4.2. “は” 4.2 “が正しいのではないか？

箇条番号の表記は，当時有効であった“F 2000.8.30, 標準作成手引き，2000 年 8 月 30 日，(社)日本原子力学会 標準委員会”に準拠した付番方式では“4.”，“4.1”等であるため，“4.2 “が正しいことが会議後に判明した。

Q：ii 頁箱書きの手書き修正の“必要に応じて”の挿入箇所は，「日本原子力学会」の前ではなく，「一般社団法人 日本原子力学会」の前ではないか。

A：そのとおり。

C：表紙の発行年月 2005 年 7 月時点では「社団法人 日本原子力学会」であるのに，ここが「一般社団法人 日本原子力学会」と修正されていることに違和感がある。

C：標準の正誤表に関する審議要領などの扱いについては，標準委員会審議要領 4.1 (5)に規定されている。学会 HP 及び学会誌に公表すること，正誤表反映版が識別できるようにすることなどが規定されている。

Q：細分箇条番号の書式，カッコの対応ミス，単純な誤字・脱字などのような微細な修正までも正誤表で扱うべきものか。

A：標準委員会審議要領 4.1 (4)には，誤記等の修正の審議要領として“委員長又は部会長は，標準の誤記等による修正結果を委員長又は関係専門部会の委員に報告する。”とある。

C：それは，標準発行前の修正に関する規定ではないか。

“審議要領 4.1 (5)正誤表の審議要領“では，次のように規定されている(会議後調査して記載)。

発行された標準に対する正誤表は、関係専門部会で審議、承認された後、委員会で審議する。委員会は、正誤表の扱いを決定する。

(a) 委員会は正誤表の内容により、早急な改定が必要か否かを審議し、必要と判断した場合は、関係専門部会に改定するよう指示する。

(b) 正誤表は、学会のインターネットホームページ及び学会誌に公表する。また、在庫に添付する。

(c) 増刷の予定がある場合は、増刷版に正誤表通り修正できることとし、正誤表反映版と初版とは識別できるようにする。

審議の結果、提案された正誤表案は確認され、承認決議された。

その後、標準委員会で報告したが、審議の結果、今後、標準活動基本戦略タスクで正誤表の取扱方法を取り纏め、標準委員会で報告した後、その取扱方法に本件（及び今後発生する正誤表）は従うこととなった。

(5) 【報告】標準策定スケジュール（案）(FTC63-4)

事務局から FTC63-4 に基づいて、前回標準委員会で報告した“原子燃料サイクル専門部会標準策定 5 年計画”について報告があった。主な質疑等は以下のとおり。

・現在活動を停止している分科会が標準改定の要否の検討対応するためには、既に委員の任期が切れていることから、実質的に分科会組織自体存在しておらず、再度委員を選任し、再開する必要がある。どのような手続きが必要かは確認する必要がある。

・“標準委員会 専門部会運営通則”が改定された際に（2008年7月22日改正），“既存標準の改定原案の策定は少なくとも5年毎に行う。”が削除されたが、まだ，“標準委員会 専門部会運営通則”には“5年毎の既存標準改定の要否”の文言として記載されている。本件については、標準活動基本戦略タスクに議案として提案していただくこととなった。

(6) 【報告】標準委員会運営について (FTC63-5-1, FTC63-5-2, FTC63-5-3)

事務局から FTC63-5-1, FTC63-5-2 及び FTC63-5-3 に基づいて、“標準委員会運営内規（平成27年3月13日改正）”、“標準委員会の活動基本方針“及び”標準活動基本戦略タスク 運営要領“について報告があった。主な質疑等は以下のとおり。

Q：”標準活動基本戦略タスク運営要領“中の”制定期日“及び”附則1. “の”施行日である”平成26年3月13日“は”平成27年3月13日“の間違いではないか？

A：”平成27年3月13日“の間違いである。

C：“標準委員会の活動基本方針“中”5. 標準委員会の組織体制と役割分

担“の第2パラグラフ中に以下の記載があり、原子燃料サイクル専門部会では”原子炉の廃止措置“、原子燃料サイクル専門部会では”原子力発電所の廃炉に関わる手順、廃止措置“と2専門分野で”廃止措置“がそれぞれ記載されており、重複しているのではないか。

- ・原子燃料サイクル専門部会は、転換・加工・再処理などの原子燃料施設および廃棄物施設、原子炉の廃止措置などのバックエンド分野に関わる標準を担当する。
- ・基盤応用・廃炉技術専門部会は、放射線管理一般および原子力に関連する解析技術とそのコードに関わる分野の標準を一元的に管理するとともに、福島第一原子力発電所の廃炉に関わる手順、廃止措置、処理処分、周辺環境の安全確保に関わる標準の策定に取り組む。

今後、標準活動についての要望は、標準活動基本戦略タスクの加藤幹事から標準委員会に提案していただくこととなった。

(7)【報告】2015年秋の大会 標準委員会企画セッション (FTC63-6)

LLW廃棄体等製作・管理分科会の都筑委員からFTC63-6に基づいて、2015年秋の大会 標準委員会企画セッションで報告するセッションタイトル“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法に関する標準”について報告があった。

(8) その他 (次回日程)

- ・次回第64回原子燃料サイクル専門部会は、9月8日(火)13:30から開催することとなった。

以上